

住民参画・問題解決型学習推進事業の成果と課題について

(事務局まとめ)

1 地域づくりへの広がり視点から

【「住民参画・問題解決型学習推進事業」実施報告書より抜粋】

(第1期) 平成23年度～25年度

- ・新たな人材が発掘され、様々な社会教育的働きかけにより主体的な活動が生まれ始めている。
- ・市民主体のまちづくりを目指した本事業を今後も効果的に進めていくために、市民協働（仙台プランも含む）について市民の啓発を図っていくことも重要である。
- ・学習過程において、地域課題を発掘するプロセスの持ち方には工夫の余地がある。

(第2期) 平成26年度～29年度

- ・受講者が段階を追って主体的に事業にかかわるようになり、参画の度合いが高まってきた。
- ・「集い・交わる」「考え・深める」「創り・広げる」「再考し・活かす」参画の段階を踏んだ事業を実施できた。
- ・年数を重ねるごとに受講者の自信、自己肯定感、自己有用感が向上した。
- ・成果物を作成し、それを活用・発信することで、地域課題解決や地域資源活用に役立てた。
- ・ジュニアリーダーや子ども会など、世代を越えての関わりも増えてきた。
- ・自主サークル化して活動を継続する団体が見られるようになってきた。

(第3期) 平成30年度～継続中

- ・地区市民センターを拠点として自主サークル化して活動を継続する団体や、新たに地域課題を発見し、解決に向けて取り組む団体もあり、これまで培った事業参加者の学びの成果が地域で活かされている。

【「まなびのカタチ～未来はみんなの手の中に～」(令和4年3月発行)より抜粋】

- ・地域の景観をPRするため、その景観に付された名称を確かめるべく、地域の高齢者へ取材したり、地域に伝承する昔話や文献を調べるなど活動の幅が広がった。
- ・子どもたちの居場所づくりとして、月に一回「子どもの広場」を開催。定期的な開催により、地域活動として子どもや保護者に認知されるようになり、ボランティアへの参加が続いており、子どもと大人がともに活動する場として定着している。
- ・「読み聞かせボランティア講座」の受講者が、おはなしサークルのメンバーに加入するなど、読み聞かせを通して地域活動へ参画する流れができてきた。
- ・近隣地域の「おやじの会」同士が連携し、地域の賑わいを創出するイベントを開催している。
- ・地域を牽引してきた方々の高齢化が進む中、地域の歴史と伝統を若い世代に継承するため、地域の若い世代から企画員を募り、地域資源であるお寺を会場に座禅とヨガの体験講座を企画し、各世代の参加者より定員を超える申し込みがあった。
- ・地域情報の共有を、回覧版ベースからスマートフォンやタブレット、パソコンを用いた形にできないか検討を重ね、地域住民の情報ツールのスキルアップを目指した高齢者向けのLINE講座の開催につなげた。
- ・市民センターを拠点として活動する「おやじの会」を立ち上げたが、将来自主運営を行うには人手不足であり、新規メンバーの加入促進が不可欠である。

2 市民センターの役割、事業手法の視点から

【「住民参画・問題解決型学習推進事業」実施報告書より抜粋】

(第1期) 平成23年度～25年度

- ・多くの区中央市民センターが地区市民センターと共催しながら、地域に根ざした事業を実施している。
- ・市民協働で地域課題の解決を目指す事業について、既存事業の充実を図るとともに、地区市民センターにおける取組を広げるための手立てを講じていく必要がある。
- ・事業の枠内での取組から自主的な活動への橋渡しに難しさがある。

(第2期) 平成26年度～29年度

- ・区中央市民センターと地区市民センターとの共催から地区市民センター主導による事業実施館が増加した。
- ・事業を支援する市民センター職員のコーディネート力の向上が見られた。
- ・既存の事業を見直したり、再構築したりすることで住民参画型事業として実施可能な事業がある。
- ・さらなる波及効果（より広い地域、人材、世代等との交流）を見据えた取組が必要である。

(第3期) 平成30年度～継続中

- ・市民センター職員が、地域課題解決のためのプロセスや目的に迫るアプローチの手法を事業参加者である地域住民とともに検討しながら事業を進めることで、住民が主体的に考えながら活動し、自己有用感や課題解決に取り組む意欲の向上につながっている。
- ・取組により得られた成果・手法などを、市民センター事業展などで共有することができた。

【「まなびのカタチ～未来はみんなの手の中に～」(令和4年3月発行)より抜粋】

- ・回数を重ねるにつれ、地域交流の場として地域密着型の事業となっている一方、実行委員会メンバーの高齢化が課題であるため、若い世代の事業への参画者を増やしていきたい。
- ・事業実施当日のボランティアとして、地域の小中学生やその保護者など、若い世代の参画者を増やし、次世代の担い手育成につなげたい。
- ・学校と連携し、子どものアイデアを地域の大人が具現化していく流れを作り、幅広い年代の住民が一体となって取り組んでいきたい。
- ・「地域案内人養成講座」終了後も勉強を続けたいという意欲的なメンバーが多いことから、講座終了後のサークル化なども視野に入れながら、案内人同士のつながりを深め、学び合っていけるよう支援していきたい。